

当院では下記の臨床研究を行っています。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究課題名	当会における透析患者の終末期対応の現状
研究責任者	医療法人一陽会 横川クリニック 院長 内藤隆之
他の研究機関および各施設の研究責任者	該当なし
研究の目的	<ul style="list-style-type: none">・血液透析患者数は増加し、患者の高齢化も進み、それに伴い血液透析患者の死亡数は増加した。・入院担当医が終末期治療に関わる機会が増し、初回に診察する症例に終末期治療のインフォームドコンセントを行うなど精神的負担が増している現状である。・key person(以下 KP)と速やかに連絡あるいは面談が困難な症例が増加し、担当医だけでなく入院治療に関わる医療スタッフから、蘇生処置を速やかに施す症例であるのか、穏やかな終末期ケアを実践する症例であるのかを入院時から識別する要望も高まり、事前指示書の運用が望まれている。・しかしながら“なぜ事前指示書が必要なのか”を、通院透析中の患者に説明し、理解を得ることは容易ではない。それには説明の際に提示できる数値化された情報が少ないことも影響している。・我々は当会の血液透析患者における終末期の状況を 2018 年透析医学会で発表した。心肺蘇生の実施は原田病院入院中に死亡した症例の 28%で実施されていた。この検討では死因、年代別による層別解析はされていなかった。・そこで、今回当会の血液透析患者における、死因、年代により層別化した心肺蘇生の実施状況を検証し、患者あるいは家族の事前指示書作製の際の資料として有効活用できる検証を行うことにした。
調査データ 該当期間	・2011 年 4 月から 2020 年 3 月
対象となる患者さん	・上記に死亡した患者
研究の方法 (使用する試料等)	<ul style="list-style-type: none">・透析情報科から透析患者死亡者の ID、年齢、性別、生年月日、「透析導入日を抽出したリストを提供頂く。・ID を基に診療録を閲覧し、以下の項目をエクセルシートに匿名化して入力した。・死亡日、死因、死亡場所・原田病院で死亡した症例はさらに死亡時刻、入院から死亡までの日数、心肺蘇生の有無、心肺蘇生に関する説明日
試料/情報の 他の研究機関への提供 および提供方法	他の機関への試料・情報の提供はない
個人情報の取り扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者さんを直接特定できる個人情報は削除致します。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。
お問い合わせ先	〒733-0011 広島市西区横川町 2 丁目 7-19 医療法人一陽会 横川クリニック 電話：082-231-0111(代表) 担当者：院長 医師 内藤隆之